山科スポーツNEWS

問合せ 区まちづくり推進担当（☎592-3088）

第31回市民スポーツフェスティバル

11月3日、西京極総合運動公園で第31回市民スポーツフェスティバルが開催され、山科区からは各種大会に総勢43チームが出場しました。その中で、第66回京都市ソフトボール大会では、山階南体振チームが決勝戦に出場しました。結果は、西京極体振チーム（右京区）に勝利し、京都市の頂点に立ちました。そのほか、ソフトバレーボールでは6チームが優秀チームに輝くなど、山科区が一丸となり、総合順位では、4年ぶりに3位に返り咲きました。

種目別成績（入賞以上）

ソフトボール大会（一般の部）
優勝：山階南

ソフトバレーボール 優秀チーム
山階、陵ヶ岡、大宅A、大宅B、大塚、小野A

ペタンク 優秀チーム
山階

グラウンド・ゴルフ
6位：大宅

第29回山科区民ニュースポーツ祭

11月10日、第29回山科区民ニュースポーツ祭が開催され、グラウンド・ゴルフ大会、ソフトバレーボール大会ともに白熱した試合が展開されました。グラウンド・ゴルフ大会では、音羽体振チームがホールインワンを合計5回出すなど2位と大差をつけ、優勝を果たしました。また、ソフトバレーボール大会は山階南体振チームが1セットも落とすことなく優勝し、見事2連覇を成し遂げました。

グラウンド・ゴルフ

団体の部
優　勝：音羽　準優勝：音羽川
3　位：陵ヶ岡

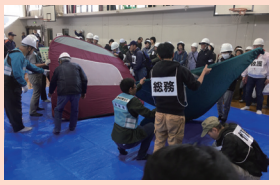
個人の部
優　勝：辻村 外成さん（音羽）
準優勝：横田 道子さん（大塚）
3　位：藤本 信夫さん（音羽）

ソフトバレーボール
優　勝：山階南A　準優勝：山階A
3　位：小野B、勧修B

災害に備えて

～令和元年度山科区民総合防災訓練を実施しました～

11月10日、山科区民総合防災訓練を区内一斉に各学区で実施しました（大宅学区は11月17日実施）。



M6.6の直下型地震が発生し、大きな被害が発生しているという想定のもと、身の安全の確保、地域の安否確認等の初動活動を実施し、避難所の開設、救助・救急訓練など、実践的な訓練を実施しました。

山階南小学校では、山科区と「災害時における電気の供給に関する協定」を締結している株式会社FUKUDAの電源車両により、電力供給ブースが設けられました。

災害は突然やってきます。いざという時の対応や、各家庭の備えについて再確認をしましょう。

問合せ 区総務・防災担当（☎592-3066）

京都市初の「災害時における防災活動の支援協力」に関する協定を締結!

11月19日、京都市はイオンタウン株式会社及び株式会社ダイエーとの3者で「災害時における防災活動の支援協力に関する協定」を締結しました。

この協定は、「イオンタウン山科椥辻」がオープンするにあたり締結したもので、「災害発生時における市民への避難場所やトイレの提供、避難所への食料や生活用品等の提供、救助活動や災害復旧に従事する車両の駐車場・活動場所の提供」などの内容が盛り込まれています。

物品販売店舗との地域密着型の防災活動の支援協力に関する協定の締結は京都市初となります。いざという時の大きな支えとして期待されます。

問合せ 区総務・防災担当（☎592-3066）

安朱小学校PTAが令和元年度優良PTA文部科学大臣表彰を受賞しました！

11月15日、東京都のホテルニューオータニで表彰式が行われました。

安朱小学校PTAでは、「いっしょに育てよう！心ゆたかな安朱の子」をスローガンに、安朱学区自治会連合会と協働し、PTAとしてできることを提案・実行されています。

今回の表彰は、地域の夏まつりや防災イベントの共同開催、また清掃活動や子どもたちの安心安全のための見守り活動等、長年にわたる数多くの地域との連携活動が評価されました。

問合せ 市教育委員会事務局生涯学習部学校地域協働推進担当（☎251-0444）

第64回 連載 区民活動きずなリレー

みんなで「第2期山科区基本計画」に取り組もう！

～世代間の交流を深めるものづくりワークショップ～

京都橘大学地域連携センター公認学生団体「たちラボたち」

地域と連携した活動をする京都橘大学の学生団体「たちラボたち」。今年度は陵ヶ岡小学校を会場に子どもと高齢者の世代間交流を目的としたものづくりのワークショップを開催しています。

取材した日の参加者は子ども29人、大人10人。大学生の進行で、まずはクイズ大会により参加者同士の交流を図ってから、講師の説明。作るのはステンドグラス風かざり額です。クリアフォルダーの表面・裏面に模様の輪郭と色を塗る部分を描き分けると、まるでステンドグラスのような雰囲気になります。輪郭を描いている時は集中して会話もまばらでしたが、色を塗り始めるとペンの貸し借りをきっかけに隣同士会話が弾みだします。塗り終わった絵は額に入れて完成。後ろから光を当てるときれいなこと。子どもたちからは「はじめて作った」「もっとやりたい」「自分で工夫してすごいの作れた」などの声が聞かれました。

学生リーダー、岩嵜ひかりさんは京都橘大学健康科学部臨床検査学科の2回生。「1回生の時から人と違うことをしたいと思い、たちラボたちに参加しました。今回の企画は私たちが最も力を入れている『地域内の世代間交流』を進めるためのものです。最初は交流が進むか不安でしたが、やってみたら自然に交流ができていて安心しました。」とのこと。交流プログラムは昨年から実施していますが、今年は小学校を会場にしたことで、より深い交流が実現したと感じているそうです。

スタッフには京都薬科大学の学生の姿も。田中聡美さんは京都薬科大学の3回生。「大学を通じてこの取組のスタッフ募集があり参加しました。」とのこと。たちラボたちは京都橘大学の団体ですが、活動をする上で幅を広げるために京都薬科大学にも声をかけたそうです。

地域側の世話役、陵ヶ岡自治連合会副会長山本嘉輝さんは「高齢者のプログラムは地域でもたくさんやっていますが、こうやって子どもとじっくり交流できる機会はありがたく感じています。」といいます。参加した高齢者からは「年齢を忘れて楽しんだ」「子どもの集中力に負けられないと思った」「子どもの発想の柔軟さにびっくり」などの声が聞かれました。

ものづくりワークショップは作る内容を変えながら年間4回の予定。ここで顔見知りになった人どうしなら地域で出会った際に挨拶する関係になることでしょう。

（京都市まちづくりアドバイザー佐藤友一）

問合せ 区総務・防災担当（☎592-3066）